

## 令和6年度 第2回徳島県自殺対策連絡協議会 議事概要

○日 時 令和7年3月5日(水)  
午前10時から午前11時まで

○形 態 オンラインによるWeb会議

○出席者 徳島県自殺対策連絡協議会委員 16名  
沼田会長、 菊池副会長、 齋藤委員(中村代理)、  
林委員、 斎藤恵委員、 先田委員、  
岡崎委員、 小寺委員、 郡委員、  
石元委員、 久次米委員、 福多委員、  
上田委員(武田代理)  
事 務 局(徳島県保健福祉部地域共生推進課)

### ○会議概要

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

(地域共生推進課 加藤課長)

(協議会会長 徳島大学大学院 沼田教授)

#### 3 議事次第

(1)県内における自殺者数の現状について

(2)自殺予防対策の重点取組について

#### 4 発言要旨(議事概要)

##### 議事(1)県内における自殺者数の現状について

##### 議事(2)自殺予防対策の重点取組について 事務局より説明

- |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委 員 | <p>自殺者数が増えていることについては、残念な感じがしております。</p> <p>どんな事情があるかどうかはわかりませんが、県の皆様やそしてまた、各関係団体の皆さんが、いろいろ努力をしてくださっておりますが、なかなか自殺者数を減らすっていうのは難しいなという印象を受けました。</p> <p>また後程、いろいろな施策の内容をお話をさせていただきますが、難しいことも多いのではというのが、私の強い印象でございます。</p>                                                                                                      |
| 会 長 | <p>ありがとうございました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 委 員 | <p>女性会として、自殺予防について、若い人の命、全ての人の命は大切に、家庭の中での啓発として、このようなチラシがいつも手元にあるよう、届けることがとても大切だと思っております。</p> <p>DVの啓発に関するチラシ等も小さく貼ってたりするので、この啓発のチラシを同様に、ぜひトイレに貼っていただけたらと思います。</p> <p>家族の方がもしかしたら、と思う方もいらっしゃると思うので、できれば、トイレに必ず貼ってるっていうのをこれから徐々に進めていただきたい。</p> <p>家族が少しでも気が付くと、命を大切にされるんじゃないかと私は考えておりますので、できたらそういうことをね、していただけたらと思います。</p> |
| 会 長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>当事務局の方から心のSOSダイヤル等の情報提供は今後増やしていく予定は、ありますでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 事務局 | <p>今、いただいたようなことも踏まえまして、まずは県の施設、或いは市町村の施設、公的な施設にお声がけをさせていただければと思います。KIZUNAプラザにぜひ、貼っていただきたいなと思っております。</p>                                                                                                                                                                                                                  |
| 委 員 | <p>SOSダイヤルのポータルサイトの取組は素晴らしいと思います。スマホで立ち上げて、すぐアクセスできることが重要で、本当に素晴らしいと思います。今後、展開させていただけたらなと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                       |

50代勤労男性の自殺が多いということで、仕事と、メンタル面も含めた病気と治療の両立支援ということが私たちの重要事業になります。治療と仕事の両立支援というのがございますので、労働者の方と直接関わるわけではないですけども、産業保健医の先生や産業保健関係者、人事労務の方に研修等を実施しております。また両立支援専門職などの専門相談員、メンタルヘルス専門の相談員とも在籍しておりますので、ご活用いただきたいと思います。

両立支援ということで、対象疾患も広がってきております。循環器疾患や脳血管疾患、糖尿病、若年性認知症なども対象疾患に加わっております。

働く世代で、以前と同じように仕事ができなくなったとしても、その治療状況や病状に合わせて仕事をしていただくということは、非常に大切ですので、職場の方で心配なことがあれば、ご相談いただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

会 長 貴重なご意見ありがとうございました。

委 員 先ほど、県の方から自殺の状況とご報告いただき、原因動機別の割合では、やはり健康問題に次いで、経済的な問題が多いという状況を拝見いたしました。

県社協におきましては令和2年度から、県内の16の町村社協と県社協で徳島県生活困窮者自立支援協議会を設置し、県から生活困窮自立支援事業を受託いたしまして、生活の困りごとを抱えた方々の相談、支援に取り組んでいるところです。

県社協におきましても、16の町村の相談支援活動支援するための拠点として、「くらしサポートセンター」を設置し、8市の社協や自立相談支援機関等とも連携を図って取り組んでいるところです。

今年度、協議会での相談の累計は、1月末現在で1万4000件程度という状況で、経済的な困窮に関する相談が多くなっています。相談を受けた後、経済的な問題についてチェックし相談支援を行いたいと考えております。

また、相談者のうち就労されてる方も2割程度おられます。12月にはナイト相談、大型連休には、平日に相談できない方々を支援できるよう、休日でも相談を受けることができる体制を組んでおります。

事業を通じて生活困窮者に対する支援を行って参りたいと考えております。

会 長 ありがとうございます。丁寧な対応ありがとうございます。

委 員 労働局の施策としまして、先ほど高年齢者の男性の仕事問題自殺が増えていることですが、労働局としましては、労働者の健康確保対策ということで、中長

期計画で取組を組み進めております。

この中長期計画は、令和5年度から令和9年度の5カ年で進めている徳島第14次労働災害防止推進計画でありまして、その中で重点事項を定めております。

その1つとして健康確保対策を掲げております。

具体的には、主にメンタルヘルス対策、また長時間労働にかかる対策として、まずは事業所でストレスチェックを実施し、それを使用者が管理することの周知を図っているところです。

労働局は市内に1つあり、あと県内に4つ監督署がございます。労働局と監督署のそれぞれが県内のいろいろな団体に周知を図っております。労働基準監督署については、各企業を訪問し、資料を持って説明しながら周知を図り、両面から推進をしているところです。特効薬はないですから、5年かけて、着実に進めていくということとしております。各年ごとに、その結果としてストレスを感じた労働者の割合を確認し、企業にはこれを基に毎年度PDCAサイクルで改善をしていってもらうこととしております。

5年かけて進めていくということとしておりますので、また皆様方の引き続きましてのご支援、ご協力の方をいただければと思っております。

会 長

ありがとうございます。

令和6年度は勤務問題で、疲れた方の数が増えてるということですので、また、まとめた情報提供がございましたらよろしくお願いいたします。

委 員

私もこのデータを拝見し、8月のこの会議で全国的にも低いレベルでいいなと思っていたところですが、私と同世代以上の男性の方が生活のこと或いはお仕事のこと、ご病気のことで悩んで、追い詰められて、増えていくというデータになります。本当に他人事ではなく、私の周り、職場の周りへ気を配っていかなければならないことを改めて思い知らされ、深刻に受け止めました。

NHKとしましては、ニュースなどで取り上げる際、特に自殺、もしくはそういうものに関するような情報である場合は、マスコミ各社様も同様に、取組として、ニュースの末尾に相談窓口や、相談先について必ず付け加えて放送するという形をとっています。改めて我々もそういうところを1つ1つ丁寧にやっていかなければいけないなと思いました。

今、ご案内がありましたポータルサイトに、自分でアクセスしてみて、非常によくできていて、いろいろな窓口があるんだとわかります。

それから前年、講演に呼ばれていたオキタリユウイチさんの「生きテク」のサイトへのリンクが貼ってあり、使いやすくていいのではないかなと思います。私ど

もの放送を通じてこのようなサイトを紹介できる機会となればと思っております。  
また、NHKでは、全国放送などで、生きづらさを抱えてらっしゃる皆さんを丁寧に  
取り上げるドラマを一生懸命作っております。3月にも特集ドラマが放送される  
というふうに聞いております。「どうせ死ぬならパリで死のう」というタイトルで、  
悩みを抱えた男性が、いろいろな出会いがあり、人生を取り戻していくというドラ  
マだと聞いております。悩みを持ってらっしゃる皆さんが、心を開く或いは、実行に  
至る手前のところでもう一度考えて踏みとどまるというものに繋がっていければ  
いいな、と思っております。

いろいろなチャンネルを通して、引き続き取組を続けて少しでもお役に立てる放  
送局、マスコミであるよう、努力を続けて参りたいと思っております。

会 長           ありがとうございます。

高齢の方はNHKを本当によく見られてると思いますので、心のSOSのサイト情報  
を提供していただけたら非常に助かります。

委 員           私からは県内6つの保健所で行っております取組について紹介させていただきます。

資料の3の、6ページから9ページに、徳島保健所から美波保健所での取組の記  
載がございます。

人材育成や普及啓発、実際に自殺未遂者などのハイリスク者支援、若年層対策など  
を保健所では行っているところでございます。

私が所属しております阿南保健所や美波保健所でも、南部総合県民局としての予  
算を取った事業を展開しております。先月、2月18日では、徳島県内で自殺率が  
低かった旧海部町で調査研究をされていた、東京の統計数理研究所の岡檀先生に  
よる住民向けの講演会なども行いました。

県西部の三好保健所でも、産婦人科と精神科医療関係者向けの会議を立ち上げ、  
三好保健所では高齢の方の利用の多いタクシー会社にも啓発へのご協力をお願い  
するなど、工夫を凝らした対策を展開しているところでございます。

先ほど事務局から説明がありました心のSOSダイヤル私も非常にいいな、と思い  
ました。サイトに番号を案内しても、手入力で番号を携帯電話に入力するようなも  
のがありますが、発信場面ですぐつながるということも、相談のハードルを下げる  
と思います。こちらのサイトのQRコードの啓発も活用しながら、今後も機会をとら  
えて相談支援が必要な環境にアクセスできるような取組を行って参りたいと思い  
ます。

会 長

ありがとうございます。

委 員

精神保健福祉センターでは、ひきこもりの支援なども行っております。

ひきこもりについて令和5年に出ている調査では、平成28年と30年に調査した、県全体の調査よりも、ひきこもりの方が増えてるというような結果でした。同時に、この夏の結果で特徴的だったのが、引きこもりになった年齢が60歳以上である人、ひきこもりの期間が3年未満である人が多くいるという結果になっています。

また、対人関係に特に問題は感じていないが、引きこもりになった方が50%ほどいるということでした。前回の調査は30%台です。そこから推測されるのは、特にいじめとか、人間関係のトラブルがあって引きこもるようになったというような方ではなく、高齢の方の引きこもりの方、また特に問題はないけど、自然に引きこもりになった。

コロナ禍で、行事やイベントがなくなり、コミュニティでの繋がりもなくなり、高齢の方で、自然と引きこもりになったという方が多く増えている結果だと思います。

今回も県の取組で生活困窮とか孤独孤立対策プラットフォームが提示されており、大変大事な取組だと思います。本当に自然に孤立している高齢者の方々がたくさん増えてるのが現状だと思いました。

自殺予防の講演会を、県内3ヶ所でさせていただいた折にも、老人クラブでは友愛訪問という形で孤独、孤立した老人の方々を訪問していると聞きました。遠くで訪問できない時には、ポータルサイトの心のSOSダイヤルは、大変いい試みだと思います。ありがとうございます。

また、県もやっている、「声かけ」の啓発チラシですが、旧海部町でもこのような声かけが大事だと言われてました。

本人からアプローチして電話するっていうのも1つの方法だと思いますが、こちらから電話を発信することはできないか、とも思いました。

老人クラブの方々とかで、電話をかけて、挨拶程度の電話でいいんだと思います。声かけキャンペーンでも「おはよう」「いってらっしゃい」「お帰り」「お疲れさん」などの声かけが大事だということを言われております。

定期的に、2週間に一度でもいいから、孤独だと思われる子、高齢者の方々に電話をかけるような取組もできれば、いいかと考えておりました。

また、精神保健福祉センターの方では「わかちあいの会」という、自死遺族の交流会を支援しております。これは残念なんですけど、自殺で亡くなったご遺族の方々の交流会です。ご本人たちが、会議を立ち上げて、自助グループとしての活動も、

始まっております。ご遺族の方々のサポートの会もあることも、またご周知いただけたら、ありがたく思います。

会 長

ありがとうございます。

高齢者の引きこもり情報は非常に興味深く思いました。

また孤立老人の対応について孤独孤立支援プラットフォームを活用し、そこを高齢者を対象に、特別なところを皆様で検討していければと考えております。

委 員

当課所管の精神保健福祉分野については、精神保健福祉センターや保健所、依存症専門の医療機関として選定している精神科病院等において、悩みを抱える方やその家族が相談できる窓口を設置していますので、ぜひご活用いただけるよう、周知についても広く取り組んでいきたいと考えています。

当課における自殺対策の取り組みですが、主に精神障がい者の方やその家族を対象に、スポーツ交流会のイベントを徳島県精神保健福祉協会さまに委託して実施しており、スポーツを通じた居場所の確保や、社会との繋がり構築を図っています。

また、例年秋頃には、県内の精神科病院に入院中の患者の方々が作成された絵画や手工芸作品などを展示する「目で見る精神保健展」を開催しており、精神障がい者の方に対する理解促進や精神保健福祉の啓発を図っています。

今年度は2日間で860人以上の方に参加いただいたところです。

自殺のリスクが高いとされている精神障がい者の方を含め、社会生活において不安や悩みを抱えている多くの方々に、このようなイベントにご参加いただけるよう、より一層の周知に努めて参りたいと考えています。

会 長

ありがとうございます。

委 員

日頃は教育委員会の取組に対しまして、ご理解ご協力を賜りまして、大変ありがとうございます。

それでは、教育委員会における令和6年度自殺予防対策の重点取組における進捗状況と、3月の自殺対策強化月間の取組につきまして説明をさせていただきます。

初めに、令和6年度、自殺予防対策の重点取組における進捗状況につきまして、主要内容に絞って報告をいたします。

資料3の10ページに記載の通り、医師、助産師等を講師として派遣し、SOSの出し方や、命の大切さを学ぶ、命を守る子供サポート事業の実施。また、スクールカウ

ンセラー等の専門家の派遣による児童生徒の心のケア及び教育相談支援体制の充実など、自殺予防に向けた相談窓口の周知啓発等を通じて、児童生徒の自殺予防に取り組んでいるところです。

教職員に対する取組といたしましては、教職員相談事業では、専門相談員によるメンタルヘルスカウンセリングや心理等による出前講座を開催するとともに、時間外在校等時間が長時間に及ぶ教職員を対象として、オンライン産業医面接指導強化事業を実施するなど、教職員のメンタルヘルスケアに努めているところです。

次に、自殺対策強化月間の取組としましては、資料2の24、25に記載の通り、各学校における組織的な見守り体制の充実。及び保護者や地域住民、関係機関等との連携を踏まえた児童生徒の自殺予防に係る取組の周知啓発を図るとともに、長期休業明け前後に児童生徒の自殺者が増加する傾向を踏まえ、学年末や年度初め及び長期休業中における園児児童生徒へのきめ細やかな指導の充実について、各市町村教育委員会及び各公立学校長に依頼をしているところです。

今後とも、自殺対策強化月間の趣旨を踏まえ、児童生徒や教職員の尊い命を守るため、引き続き高い緊張感を持って教育委員会における自殺予防対策を、着実に推進して参りたいと考えております。

今後ともご指導よろしくお願いいたします。

会 長           ありがとうございます。

委 員           警察からは、資料3の11ページにも記載されている、令和6年度、自殺予防対策、重点取組について説明させていただきます。

県警では、これまで通り、重点項目として4点について、取り組んでおります。

まず1点目は、既存資料の利活用の促進ということになっております。

県警察では、例年900件の変死事案を取り扱っており、この中で、自殺と特定された事案について、自殺統計資料の項目を元に提供させていただいております。正しい資料の提供内容につきまして、対策の参考となるように可能な限り、自殺の原因であったり、動機などに関して情報提供したいと考えておりますが、個人の特定やプライバシーの侵害などに至らないようを考慮しての提供になっているということになります。

2点目について、インターネット上の自殺予告事案に対する迅速適切な対応になります。県警察では、インターネット上で自殺予告をほのめかす内容の書き込みを認知した場合に、専門のサイバー戦略推進課などと連携をして、インターネットプロバイダーなどの関係機関との協力を得て、早期に、書き込みをした人物とか、発信元を特定して、警察による安否確認などを行い人命の保護に努めております。

3点目は、性犯罪等被害者に対する的確な対応と支援です。県警察では、精神的ショックの大きな事件や事故の被害者に対して、必要に応じて被害者支援員を指定して、対象者のニーズに応じた支援を実施し、二次的被害が発生しないように努めております。

最後4点目は、関係機関との連携になります。県警察では、自殺予告者の発見のため、県内市町村やインターネットプロバイダーなどとの協力関係を構築しており、今後もさらに深めていきたいと考えております。

以上4点につきまして今後も、県関係部局はもとより、市町村やインターネットプロバイダー等の連携を維持しつつ、自殺防止に努めて参りたいと考えております。

会 長      ありがとうございます。

委 員      先ほど、自死遺族の自助グループ「徳島あい会」のご説明がありました。自殺予防協会では、令和7年9月にチャリティ講演会を開催する予定です。講師として「徳島あいの会」の立ち上げで、尽力をしてくださり、今代表を務めておられる城野さんを講師としてお迎えすることにしております。

この講演会に来ていただければ、この自助グループの働き、そしてまた、代表の方のお心について、苦しみや、それからまた決意、そういうようなものが、よく理解できるのではないかと考えていますので、ご案内をさせていただきました。

また、昨年のチャリティ講演会でお迎えした、NPO法人「生きテク」代表でありますオキタリウイチさんは、様々な苦しみがある方々が自殺を思いとどまったきっかけについて情報を集めて、サイト「生きテク」に掲載しております。そのサイトを見た方が随分助けられて、自殺を思いとどまったというようなこともあると聞いております。

私たちも、県の委託事業で、いのちのネットワーク研修会というのを毎月第1月曜日に行っております、今年は、そういう様々な不調といいますか、行き詰まりを経験された方が、何かのきっかけで元気になられて、そこから教えられた、新しい見方とか生き方について、また今こんなふうやってます、というような体験談を聞かせていただくような講師を、今年は計画をしております。

ぜひ、そういうネットワーク研修会にもお越しいただいたら、生きる勇気を得る方もいらっしゃるのではないかと思いますので、皆さんにも知っておいていただき、ぜひ参加いただいたら大変嬉しいと思っております。

会 長      委員の皆様、長時間にわたり熱心にご審議いただき大変ありがとうございました。

事務局

本日は非常に貴重なご提言をいただきまして、大変ありがとうございます。

ポータルサイトのSOSダイヤルについてご紹介いたしましたら、特に現場で、普段から相談支援に携わっている、保健所さんですとか精保センターさんとか、産業医の皆さん、衛生専門の皆さんからも非常にこれは良いというようなお声もいただきましたので、我々も非常に勇気づけられました。今後とも皆様と啓発普及に努めていければと思っております。

また、高齢者の方に情報を伝達するのに、プッシュ型で、こちらからというお話もいただきました。孤独・孤立対策としまして、次年度はですね、圏域ごとに、サポートできるようなきめ細やかな取組をしていきたいと思っておりますので、こちらでも保健所さん或いは福祉事務所、各県民局、県、或いは市町村、それぞれの団体と連携した取組ができるよう、その中で高齢者の皆さんへの働きかけを進めていきたいと考えております。

それから、警察本部にはご協力いただきまして、今年から、年配の方、男性の方への啓発強化としまして、免許センターの免許の更新には必ず皆さん行くであろうということで、免許センターで啓発の機会をいただいております。

我々も、気づいていただける、新しい取組につながるアイデア、ご意見をいただく、貴重な機会となりました。

本日はどうもありがとうございました。

## 5 閉会のあいさつ